

IJ 学級通信

IJ 学級 学級通信 No. 24
令和 7 年 3 月 7 日 (金)

3 月を迎えて

今年度も残り 3 週間ほどになりました。今週からは、3 年生の卒業式の練習などが始まり、1・2 年生と過ごす日が少なくなってきました。3 年生のひばりが丘中からの巣立ちが近づいています。3 年生には、残りの学校生活を大切に、過ごしてほしいと思います。

話は変わりますが、東京都には、愛の手帳をお持ちの方が、18 歳を過ぎた方を対象として就労支援と生活動作など支援を受けている場合があります。「通勤寮」といい、入所されているほとんどの方が、企業就労をして、身の回りのことを自分で行う力、金銭を管理する力、余暇の過ごし方などを学び、一人で生活する力を付けていっています。

教え子の何人かは、都内に 6 箇所ある通勤寮での生活を経験しています。昨年 4 月から 23 区にある通勤寮で生活している教え子がいて、年賀状には、通勤寮で頑張っていることを報告してくれました。年賀状をくれたもう一人の教え子も通勤寮での生活を経験して、現在は多摩地区にある特例子会社に勤め、今年で 46 歳になります。その教え子は卒業以来、毎年、暑中見舞いと年賀状を欠かさずに送ってきてくれますが、そこには、必ずお母さんによる近況報告が添えられています。一生懸命働いて得た給料で、親子で海外旅行をしたこと、息子さんの働き振りなど生活の様子が良くわかります。

そして今年の年賀状には、お母さんの字でこう書かれていました。「息子は、この年になっても、できることが増えています。」

このお母さんの近況報告を読み、ヴィゴツキーという旧ソ連の心理学者の「発達の最近接領域」という学説を思い出しました。「発達の最近接領域」は、自分ひとりの力では解決が難しい課題でも、周りの人の助けがあれば、解決が可能な発達段階のことを指します。言い換えますと、生徒たちの現在の力の少し上にある「明日の発達段階」です。通常では、自分の力でできることを持って、その生徒の能力が測られますが、特に特別支援教育で大切なことのひとつとしてあげられるのは、「発達の最近接領域」に働きかけて、生徒自身へ次の発達段階に進むことを促し、周囲の大人が支えていくことだと考えています。

知的な面で遅れのある方が通う作業所や就労している企業の職員の方にお話を聞きますと、余暇の過ごし方が大切であると指摘される方が多いです。当然仕事の疲れを取るために、好きなことをして過ごし、休日の楽しみをもつことも大切ですが、仕事上のスキルアップのためにパソコンを習ったり苦手な漢字や計算のドリルに取り組んだり、料理をするなどの過ごし方を取り入れている方のほうが、職場での適応がよい傾向にあるとのことでした。大人になっても学ぶ姿勢が重要なようです。

中学校を卒業して、高等部や高等学校を終えた後、20 歳を過ぎても、できること、わかることを増やすことは可能です。3 年生の生徒の発達成長は、これからも続きます。中学校では一人でできなかったことが、それぞれの進路先での学びによって、できるようになっていくことを願っています。

ひばり文化の日の連絡・3 月 8 日 (土)

- ・生徒はいつも通り登校です。※服装はネクタイ、ワイシャツ、ブレザーです。

下校は 11:50 を予定しています。

- ・保護者の方で、IJ 学級の舞台発表（劇と音楽の会の様子をビデオ上映します）をご覧になる場合は、開演は 10 時 45 分～11:00 を予定しています。お早めにいらしてください。

作品展示の見学時間は、午前の部 10:30～12:20、午後の部 13:30～15:00。

詳しくは、先日配布した保護者用のパンフレット（紫色）をご覧ください。

入校の際には、保護者用プログラムを受付にて提示することになっていますので忘れずにご持参下さい。